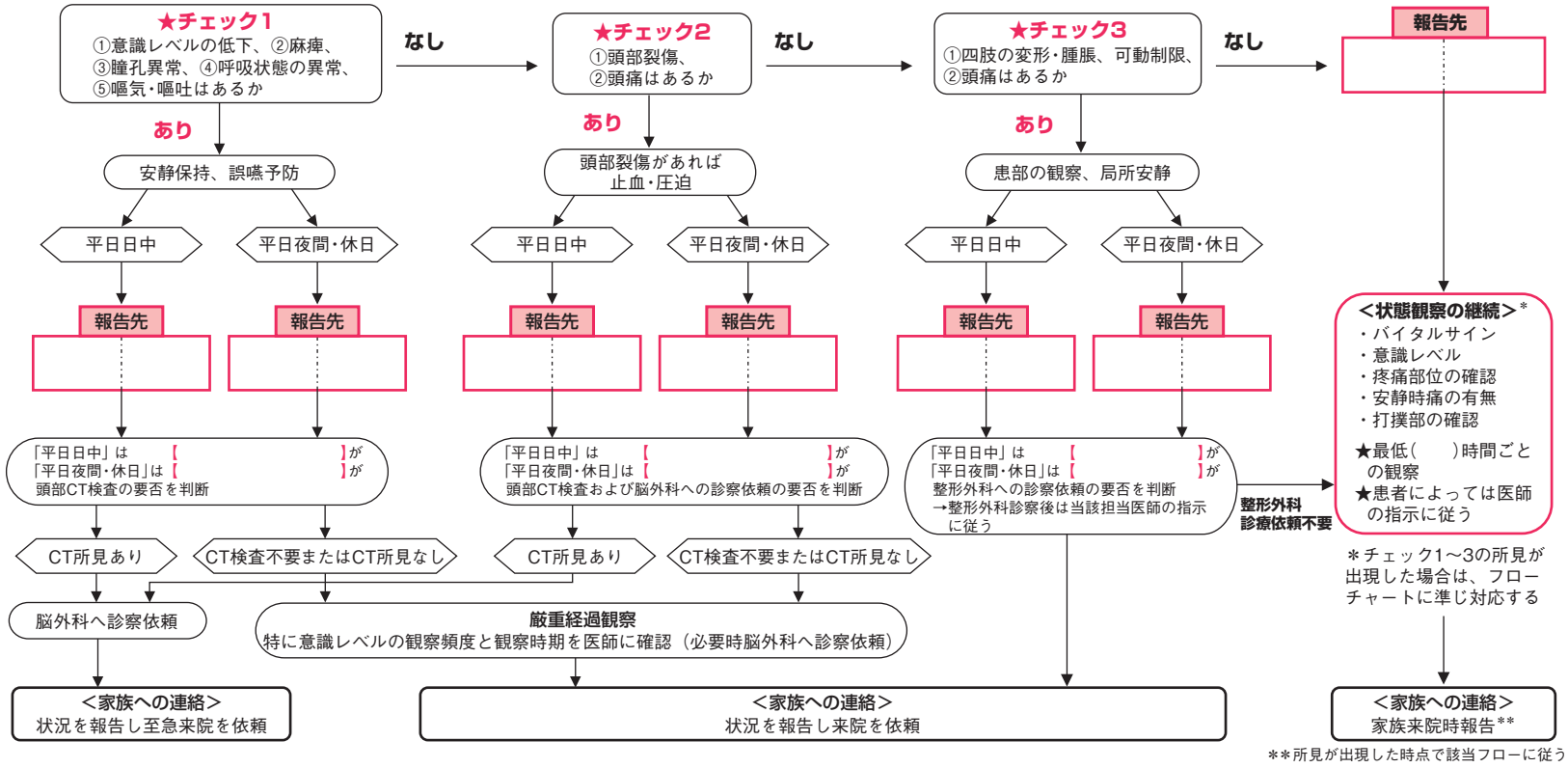
「転倒・転落」後の初期対応フローチャート

「転倒・転落」発生

★チェック1、2、3の過程で適宜、バイタルサイン測定や転倒・転落時の状況確認（いつ・どこで・どのようになったのか）を行う



■「転倒・転落」後の初期対応フローチャート作成・活用のポイント■

- 転倒・転落発見時は、「チェック1」→「チェック2」→「チェック3」と、緊急性の高い症状から評価する。
- 平日日中と平日夜間・休日のルートを別々に記す。
- 報告先の欄には、自施設での医師の報告先（主治医、病棟担当医、当直医など）、看護師の報告先（病棟師長、リーダー看護師など）をそれぞれ記入する。
- 【 】内には、要否の判断をする医師を記入する。
- 右側の＜状態観察の継続＞の欄の（ ）内は、自施設での状態観察の頻度に合わせて記入する。
- 頭部CT検査で異常所見がない場合でも、その後に硬膜下血腫などによる急変が予測されるので、厳重な経過観察を行うことや、意識レベルの観察頻度や観察時期について医師に確認することを明記しておくとよい。